

勝浦市

KATSUURA City

市民協働によるまちづくり



勝浦市長 猿田 寿男

勝浦市は、太平洋に面した自然豊かな街で、海岸線は岩礁や砂浜など変化に富み、風光明媚な景色を楽しむことができます。内陸部には海抜150〜200mの緑豊かな房総丘陵が広がり、四方を海と山の豊かな自然に囲まれた勝浦は、古くから漁業・農業・観光のまちとして栄えてきました。

特にカツオは全国有数の水揚げを誇り、また、東洋一の規模を持つ勝浦海中展望塔、日本の渚100選に選ばれた鶴原・守谷海岸など観光資源も豊富です。最近ではB-1グランプリでゴールドグランプリを獲得したまちおこし団体「熱血!!勝浦タンタンメン船団」の活躍により勝浦タンタンメンが大人気となっています。さらに、春には「勝浦港カツオまつり」、夏には「かつうら若潮まつり花火大会」、秋には「かつうら魅力市」そして、冬には「かつうらビッグひな祭り」と年間を通して多彩なイベントの開催により観光地としての魅力を高めています。

しかし、本市も人口減少が続き、少子化や若者の転出などが地域経済を逼迫させる状況となっています。このような状況に的確に対応するため、まち・ひと・しごと創生総合戦略をもとに、人口減少社会に対応する活力ある取り組みを行っています。

産業振興・企業誘致・就業支援による働く場所の確保については、地場産業である農業・漁業の基幹産業の強化はもとより、元行川アイランド跡地を活用し、宿泊型リゾート施設を計画する企業の事業推進支援や、空き公共施設を活用した企業誘致を積極的に進めています。

子育て・教育環境の面では、現在、今秋の完成に向け、幼保連携型認定こども園を建設しているほか、中学校では今春にプールが完成する予定で、未来の勝浦を担う子どもたちの健やかな成長を支えてまいります。

また、基幹産業の一つである観光による交流人口の拡大を図るには、道路網の整備、鉄道の利便性向上が必要です。圏央道市原鶴舞インターからのアクセス道路である、国道297号松野バイパスの早期全線開通及びJR外房線の利便性向上にも引き続き取り組んでまいります。

市民協働による未来への更なる発展・飛躍に向けて、まちづくりに全力を傾注し、行ってみたい、住んでみたい、住み続けたい魅力あふれるまちを目指してまいります。

eスポーツ始めました

勝浦市は、国内初めての「自治体が関与するeスポーツプロチーム」を結成することを目標に、平成30年7月、まずは市民の皆様へのeスポーツ自体の認知度を高める活動として、定期的なeスポーツ大会の開催を始めました。



■第1回大会の様子

勝浦市は、国内初めての「自治体が関与するeスポーツプロチーム」を結成することを目標に、平成30年7月、まずは市民の皆様へのeスポーツ自体の認知度を高める活動として、定期的なeスポーツ大会の開催を始めました。当市は、風光明媚な風景と美味しい食べ物、「かつうらビッグひな祭り」をはじめとする様々なイベントなどが魅力の観光都市として知名度を有しています。しかしながら、全国津々浦々を見渡しますと、魅力あふれる観光資源を持つ地域は数多くあるのも現実です。今後、日本全体での人口減少が予測されるなか、一般的な観光振興や移住定住施策だけで、人口増を望むのは可能性が低いと考えざるを得ません。また、当市の美しい景観を織りなす丘陵性山地とリアス式海岸線は、同時に、まとまった平地の確保が難しく、大型の企業・商業施設などの誘致に至れていない一因となっています。

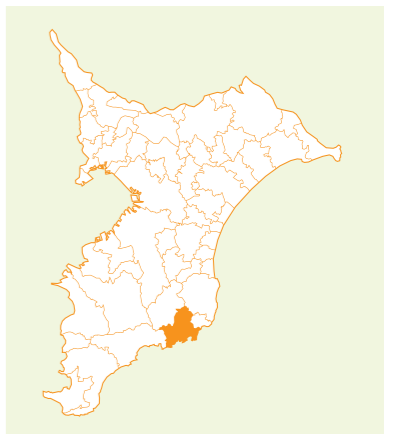
このような状況のなか、今年、茨城県での第74回国民体育大会「いきいき茨城ゆめ国体・大会」の文化プログラムにおいて「全国都道府県対抗eスポーツ選手権」が開催され

地域活性の起爆剤に!



■第1回大会ポスター

様々なTV局でeスポーツ専門の番組がレギュラー放送されるなど、注目度が日に日に高まっているeスポーツではありますが、当市のような地方市での認知度はまだまだ無いに等しく、「ゲームは遊びであってスポーツではない」という認識の根深さを感じます。どんな事業も地元の盛り上げを欠いたま



市章
漁港で観光地である勝浦市を表象したもので「カツ」を図案化し、伸展上昇と円満協力を簡潔に印象づけて市章化したものです。



人口世帯数

人口
男性
女性
世帯

17,512人
8,800人
8,712人
8,616世帯

2019年2月1日現在



勝浦市のマスコットキャラクター 勝浦カッピー

勝浦市データ

市役所/〒299-5292 千葉県勝浦市新官1343番地の1 TEL/0470-73-1211(代表) ホームページアドレス <https://www.city.katsuura.lg.jp>



ま発展させることは非常に困難です。まずはこの、TVゲームもスポーツ

たる、ということを経験させるべく、すでに2回の大会を開催しました。

記念すべき7月の第1回大会は、W杯が行われた直後でもあったことから、サッカーゲームの「ウイニングイレブン2018」。初の試みならず、告知期間も短かったため、12人の選手を含めて約30人での開催となりました。

11月の第2回大会は、シリーズ誕生から30周年を迎え、世界大会も行われている格闘ゲーム「ストリートファイターV」。大会の認知度が早くも高まったのか、告知期間はあまり変わらなかったものの市外・県外からのエントリーを含め18人の選手と約50人の観戦者で開催することができました。

2回の大会開催でわかったことは、試合終了後に選手同士の交流があり、年齢差があっても共に楽しむことができるなど、コミュニティ醸成の場となり、地域活性化の一助として非常に効果が期待できること。

今後大会開催を重ねつつ、地域を盛り上げ、チーム結成に向けて、また、勝浦市がまさかのeスポーツ先進地となるように、突き進んでいこうと思えます。